



神奈川県立総合療育相談センターの あり方について (主な機能ごとの課題と論点)

令和4年10月11日

福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課

主な機能ごとの課題と論点(案)

I 診療所(外来診療)

【課題】

- ・ 医療人材の確保(医師・看護師・PT・OT・ST)
- ・ 業務が多岐にわたり、SRCの特色が理解されづらい。
- ・ 外来診療と地域支援(巡回リハ・学校支援等)を行う強みが理解されづらい。
- ・ 診療科により、「需要>供給」で受診待機が多い(3~4か月待ち)。
- ・ 検査のみ、書類作成のみの希望がある。
- ・ デジタル化が進んでいない。

【論点】

- 医療人材の確保対策
- 診療科目のあり方(ニーズは何か)、地域連携のあり方(ニーズは何か)

主な機能ごとの課題と論点(案)

I 診療所(入院診療)

【課題】

- ・ 医療人材の確保(医師(当直医含む)・看護師)
- ・ 入院患者の減少
- ・ 看護師不足により、一時的な病棟閉鎖を行わざるを得ない状況。
- ・ 児童相談所の一時保護委託に対応しきれない。

【論点】

- 医療人材の確保対策
- 「診療ニーズ < 福祉ニーズ」の実態がある中「病棟」が適切か。
- 県直営の意義

主な機能ごとの課題と論点(案)

II 医療型短期入所（病棟の空床利用）

【課題】

- ・ 医療人材の確保(医師(当直医含む)・看護師)
- ・ 利用者が急変した場合の対策(救急病院との連携)
- ・ 看護師不足により、一時的な病棟閉鎖を行わざるを得ない状況。
- ・ 利用者の多くは近隣市町の方。
- ・ 障害福祉サービス等報酬と病棟の維持費用の乖離が大きい。
- ・ 施設の老朽化

【論点】

- 医療人材の確保対策
- 「診療ニーズ < 福祉ニーズ」の実態がある中「病棟」が適切か。
- 県直営の意義、有床診療所の空床利用として継続することが適切か。

主な機能ごとの課題と論点(案)

Ⅲ 障害児等療育支援事業

【課題】

- ・ 医療的ケア児支援法の施行により、医療的ケア児支援の強化が求められている。
- ・ 障がい児福祉サービスは増加しているが、支援の質の向上が求められている。

【論点】

- 身近な地域で受ける療育支援との役割分担や連携について、どう考えるか。
- 保育所等においても医療的ケア児の受入れに必要な措置が求められているところ、療育関係機関に対する支援をどう考えるか。
- 県事業として、地域間の均衡をどのように図っていくか。

主な機能ごとの課題と論点(案)

IV 障害者更生相談所

【課題】

- ・ 更生相談所ケースワーカーは高い専門性を要するため、県福祉職の人材育成が必要。
- ・ 極めて高度な判定を行う「判定医」の安定的な確保が必要。
- ・ 新型コロナの影響を受けて、療育手帳判定に時間を要している。
- ・ 制度上「必須業務」と「できる業務」があり、「できる業務」の精査が必要。

【論点】

- 「判定医」の確保対策
- 更生相談所が担うべき業務

主な機能ごとの課題と論点(案)

V 福祉人材育成

【課題】

- ・ 他機関が実施する研修等と十分な連携が図れていない。

【論点】

- 福祉人材の育成に関する県（SRC）の役割についてどう考えるか。
- 研修等の実施状況についてどう考えるか（ニーズは何か）。

主な機能ごとの課題と論点(案)

VI 障害者手帳交付

【課題】

- ・ デジタル化が進んでおらず、膨大が業務量が生じている。
- ・ 療育手帳は都道府県毎の制度であり、転出入により程度変更となる場合あり

【論点】

- 申請のデジタル化に向けたあり方（本人申請、医師意見書、市町村連携等）
- 療育手帳のあり方

運営全般にかかる課題と論点(案)

【課題】

- ・ 専門人材（医療人材・福祉人材共）の安定確保と育成
- ・ 診断書手数料等の額について
- ・ SRC内での診察は「診療報酬請求」、地域支援（巡回リハ）は「無償」
- ・ 施設の老朽化対策

【論点】

- 専門人材の確保対策（再掲）
- 診断書手数料、免除等のあり方
- 診療にかかる費用（収入）のあり方
- SRCあり方とも関連した老朽化対策のあり方